**説教20230319エフェソ2：4-10ヨハネ6：1-15「豊かな食べ物」**

**今はお一人様用のサービスが社会にいきわたり、人が集まる場所に顔を出すことに臆病になり、一人でいることに踏みとどまっている方々が多くなったように思います。その一方で、人が集まる各種のイベントが廃れたわけではありません。満員御礼の野球観戦は再開されました。又、東京ビックサイトでの産業見本市のイベントも再び活況を呈していくことが予想されます。**

**このように、いくらお一人様用のサービスが充実して、単身者世帯がこの世で増加したとしても、人が実際に群れ集まるということは、世の終わりに至るまで変わることがないでしょう。**

**ただ、この世での人間の集いには、色々あって、その喜びも楽しみも、又、目的も参加理由も様々です。例えば、学校と言う場所に集う理由。それは新しい知識の習得。新しい人との出会い、人脈を期待する。とにかく人と交わって成長していきたい、高校ぐらいは出ておかないと世の中から取り残される、などといろいろです。**

**人の集まる処にお金も集まる、と言うのは世間的な格言ですが、聖書にもそれに該当する御言葉が記されています。「死体のある所には、はげ鷹も集まるものだ。」これはイエス様が弟子たちに対して、偽キリストの出現を警告した際に語られた御言葉ですが、永遠の命が恵まれる十字架と言う場所には、様々な動機で人々が集められるということをイエス様は言われています。**

**さて、今日のヨハネ福音書の箇所は人々がイエス様の御そばへと集められた一幕であります。もちろんイエス様は、人々を愛され、集まって来た人たちを満たすために、食べ物を全ての人に分け与え、満腹させ、それから自分が食べ物の造り主であることも、明らかに示されたのでした。人々は、パンのクズからでも、豊かな食べ物を作り出すイエス様の姿を見て、この人こそこの世の預言者、この世の王であると確信をしたのでした。**

**ところがイエス様は、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。と記されている通り、自分を王にしようとして期待している人々のその雰囲気を嫌われました。**

**この福音書の箇所の後の出来事である、イエス様の十字架での死と復活について知っている私たちは、なぜイエス様がこの人々の雰囲気を嫌われて一人で山に退かれたかの理由がお分かりになることでしょう。イエス様は父なる神の言われるとおり、必ず十字架で死ななければ、永遠の命に復活することは出来ませんでした。イエス様によってつくられた私たちも又然りであります。**

**イエス様をこの世の王として担ぎ上げようとしたこの人々の雰囲気は、私たちが想像しやすいわかり易い雰囲気です。「おーこの人こそ私たちにいつまでも豊かな食事と生活を保障してくれる王様だ、」と言って人々はイエス様を口をそろえて称賛したのでした。ところがこの時こういって集まった人々の大半は、自分自身の期待に反して、数年後に十字架に付けられたイエス様を見て、「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」と言ってイエス様をののしったのでした。**

**ここらへんに人間が抱えている罪の恐ろしさが顕れていますが、私たち人間は、みんなで「イエス様あなたこそ、まことの王様です」と言って酔いしれている時の雰囲気にハマりますと、決してその恐ろしさに気付くことは出来ないのです。**

**このときイエス様のもとに集められた５０００人の内のほとんどは、イエス様が病人たちを癒されたのを見て、自分たちもそうされたいとイエス様に期待して集まったのであり、そこでイエス様によって豊かにパンと魚とを恵まれたがゆえに、ますます、イエスに期待する者となり、遂に、イエス様に、私たちの王様になって下さいと期待するようになったのでした。**

**聖書に書かれてあることは、この様に私たちが自分の思いから相手に期待をするということとは逆のことです。聖書に記されているイエス様の御言葉は深くて広いです。私たちはこの地上を歩む間、一生かかってもその広さ深さを極めつくすことは出来ないでしょう。そして、その一字一句はどれもイエス様の恵みとまことに満ちた、私たちが決して聞き流すことが出来ない一字一句なのであります。私たちは生涯にわたって、謙虚にそして忠実に聖書に記されたイエス様の御言葉に聞き従うならば、もはや自分自身の期待による思いや言葉は出なくなってくることでしょう。今日のエフェソには次のように記されています。**

**事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。**

**これはどういうことかと言いますと、私たちは自分自身の期待によって生きるのではなく、全て、神から与えられる賜物を受けることによって生かされるのです。それは信仰によって生きるとも言い換えられますが、その信仰も、又神から与えられるものなのです。**

**エフェソの信徒への手紙/ 02章 10節**

**なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。**

**私たちがよい業を行って歩むということ、それは、私たちがイエスキリストの体の部分とされて、もはや自分の期待や意志によって歩むのではなく、イエスの御心に従って歩むようにされるということであります。**

**ところで、私たちがこの世にあってこの教会に集まっているというこの現実は、今日の5000人の集会の有様に似ていると思います。**

**教会は、クリスチャンだけではなく、未だ信仰をお持ちではない新しい新来者の訪れを待ち望んでいます。教会と言うところは、何か選ばれた会員だけが恵みを受けるような会員様以外はお断りという場所ではありません。なぜなら教会の頭であるイエス様は、この世の全ての人を愛されて救おうとされているからです。それで、今日ここでイエス様の処へと集められた私たちは、等しくイエス様から食べ物を分け与えられているのです。**

**未だ信仰をお持ちでない方は、今、どこに食べ物があるの、といぶかしく思われるかも知れませんが、私たちが、イエス様から頂くまことの食べ物と言うのは、朽ちる食べ物ではなく、何時までもなくならないで、永遠の命に至る食べ物なのです。ではその永遠の命に至る食べ物とはどこにあるのかと言いますと、それはこの聖書に記されてある神の言葉の一つひとつであり、今この教会での礼拝において、その言葉が語られ、聞かれ、受け取られているのです。**

**冒頭の集まりの話に戻りますが、私たちは、様々な動機付けや目的によって集まります。人間が集まりますと、その場所場所で独特な雰囲気が醸し出されることでしょう。この教会と言う場所は、いろいろな人が集まるという点では、先ほど申し上げましたように今日の聖書箇所のイエス様によって5000人に食べ物が与えられた集まりに似ているのですが、明らかに違う点もあります。**

**それは、この教会と言う場所での集まりには十字架が掲げられているということからも分かります。私たちは、ここで常にイエス様の十字架の死と復活とを思い起こし、それにまつわる苦しみとやがてもたらされる喜びを受け入れているのです。ここには、この世の一時的な満腹の喜びに終わることがない、御言葉を受け入れることによる永遠の喜びがあります。私たちは教会の礼拝において、信仰によって、永遠に至る食べ物をいつもイエス様から頂いているのです。**

**しかし一方で、私たちは、イエス様を自分自身の期待によって王様に付けようとする雰囲気から完全に逃れられている訳ではありません。教会の中でも、人々の苦しみはさておいて、自分たちを快くしてくれるだけのイエス様の姿を自ら思い描いて、もっともっとと言って自分の期待を膨らましていくといった誤りが起こらないとも限らないのです。**

**私たちはそのような雰囲気ではなくて、聖なる霊、聖霊に満たされ、抱かれて、口をそろえて、三位一体の主イエス様をほめたたえるのです。私たちは、聖書に記された、イエスが5000人に食べ物を分け与えたという一か所だけを抜き出して、イエス様をほめたたえるのではなくて、聖書全体、イエス様が苦しみを受けて十字架で死なれて三日後に復活されたという全ての出来事をも受け入れて、イエス様をほめたたえるのであります。**

**今、受難節の中を私たちは歩まされていますが、その中で今日の5000人に食べ物が分け与えられた個所がよく読まれる理由は何でしょうか。それは、苦しみの中でも、イエス様は日々の糧を今日も私たちにお与えになるということ、そして私たちが苦難の中で、その恵みの食事を恵まれ、それを頂くことによって、主イエスのほうに向きなおって、主イエスに感謝と賛美を捧げるようにされるためでありましょう。**

**詩編62編には次の様に記されています。**

**人の子らは空しいもの。人の子らは欺くもの。共に秤にかけても、息よりも軽い。**

**暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。力が力を生むことに心を奪われるな。**

**ひとつのことを神は語り／ふたつのことをわたしは聞いた／力は神のものであり**

**慈しみは、わたしの主よ、あなたのものである、と**

**今日の説教を聞けば、「人の子らは空しいもの・・・」と歌うこの詩編が、人嫌いをすすめている歌ではないことがよく分かります。私たちは自分自身の人間的な思いによって、人やイエス様に期待したとしても、空しくなり、又暴力に寄り頼んでしまうことになります。そうではなくて、私たちは人間の期待にはるかに勝る、主イエスの力と慈しみの内に入れられ主イエスと一つとされることが私たちの救いであります。**

**詩編62編２節**

**わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。神にわたしの救いはある。**

**私たちは自分自身の期待と言うしがらみから抜け出すために、先ず初めに、沈黙をしてから、主イエスに向かい、主イエスの御言葉を聞くということになります。**

**私たちは、神の御前に自分自身の期待を捨てて、沈黙をしていくということになります。**

**その様な営みの場所である、主イエスの教会での集まりが益々、主によって祝され、御言葉に満ち溢れ、主の栄光が豊かに現れていきますよう祈りつつ今日の説教を終わります。**

**祈り**

**主よ、今の世は、自分の期待で満ち溢れ、その自分の期待が裏切られた時の絶望、怒り、苦しみに満ち溢れています。どうか、私たちがこの世にあって、自分の期待を追い求める者ではなく、あなたの慈しみを味わい、あなたからの恵みを待望む者であることを、教えてください。**

**主よ、どうか今日１日の食べ物を、地上に生きる全ての人たちにいきわたらせて下さい。今日１日分の食べ物に事欠く人たちに食べ物をお与えください。その方々のために、私たちが執り成し祈り、働く者とならせて下さい。**

**主よ、人々を教会へ集わせ、朽ちることがないまことの食べ物である御子イエスを、私たちが味わい、その食べ物によって永遠に養われるものにして下さい。受難節のただ中を歩まされる私たちが、与えられる苦しみの一つひとつを喜びへと変えて下さる、御子イエスの恵みを大切にして、味わっていくことが出来ますように。**